



安方中だより

令和5年12月5日 第7号

大田区立安方中学校

「何のために」

校長 佐藤 彰

早いものでもう12月にな
終わろうとしています。時の
じるとともに、惰性に流され
思うこの頃です。



り、あと少しで今年も
流れの速さを改めて感
ずに生きていきたいと

さて、本校では伝統のキャリア教育のひとつとして、
1年生で職業調べ、2年生で職場体験を実施し、健全な職業観や勤労観の育成に取り組ん
でいます。今回は、西洋の昔話をもとに、仕事について考えてみたいと思います。

中世ヨーロッパのとある街を、一人の男が旅をしていました。すると、建築現場で汗だ
くになりながら、重たいレンガを積み上げている3人の職人に出会いました。旅人は、
「何をしているんだい？」と声をかけました。

1人目の職人は、「そんなの、見ればわかるだろう。親方の命令でレンガを積んでいる
んだよ。暑くて疲れるし、もうこりごりだよ」と答えました。

旅人は、2人目の職人にも尋ねました。2人目の職人は、「私はお金を得るためにレン
ガを積んで壁を造っているんだよ。この仕事は大変だけど、金がいいからやってるのさ」
と答えました。

旅人は、3人目の職人にも同じことを聞きました。3人目の職人は、「私は後世に残る
大聖堂を造ってるんだよ。出来上がるのは100年後だけど、こんな仕事に就けてとても
光栄だよ」と答えました。

3人のレンガ職人は、見た目はみな同じレンガを積む仕事をしています。しかし、仕事
に対する動機がまったく違います。動機とは働く意識のことであり、目的意識ということ
もできます。

1人目の職人は、志や夢、使命感はまったくありません。言われたからやる、言われな
ければやらない。ただ、目の前にあるレンガしか見ていません。

2人目の職人は、お金を稼ぐことだけを考えて働いています。レンガを積みば積むほど
お金になるわけなので、目の前にできた壁しか見えず、建物全体は見えていません。

3人目の職人は、100年後の未来に、大聖堂に笑顔で集う人々のことを考えてレンガ
を積んでいます。大きな夢やロマンを抱いて仕事をしています。立派な大聖堂を造るのを
自分の使命だと感じています。

3人の職人の10年後の姿はどうなっていたでしょうか。1人目の職人は、相変わらず
文句を言いながらレンガを積んでいました。2人目の職人は、賃金は高いけど危険をとも
なう屋根の上でレンガを積んでいました。3人目の職人は、建築現場の監督になり、多く
の弟子を育てました。そして、のちに出来上がった大聖堂には、彼の名前が付けられたと
いいます。

このお話は、仕事をする上でお金はもちろん重要な要素だけど、それ以外の使命感や夢、
人のために役に立ちたいという社会貢献の心がとても重要だと教えてくれているのだと思

います。

表題の「何のために」とは、自分の目的意識への問いかけと言えます。「何のために学ぶのか」、「何のために高校に行くのか」、「何のために仕事をするのか」、そして、究極は「何のために生きるのか」という価値観を常にもつことが大切だと考えています。

答えはひとつではなく、人それぞれかもしれません。この、「何のために」という目的意識を強くもつことは、生きていく上でとても重要です。迷ったり、悩んだりした時でも、この「何のために」という一点が明確で強いならば、再び目標に向かって前進を続けることができます。

生徒の皆さんも我々大人も、「何のために」という目的意識を胸中に強くもち、激動する時代を生き抜いていきたいものです。

「令和5年度大田区立中学校連合学芸会（音楽）」

11月10日（金）に令和5年度大田区立中学校連合学芸会（音楽）がアプリコの大ホールで開催されました。安方中学校からは2年1組が参加し、「COSMOS」を歌いました。とても美しいハーモニーで歌い上げ、大きな拍手を浴びていました。他校はほとんどが3年生の参加で、声量豊かで迫力のある合唱を聴くこともできました。今回の経験は、きっと来年度の安方フェスティバルに生かされるもの

【2年1組の合唱】



と思っています。また、電車や徒歩での移動でしたが、先生の指示をしっかりと聞いて公共のマナーを守っていたのもさすがでした。

「表彰」おめでとう！

【サッカー部】

○令和5年度大田区中学校サッカー
新人大会 『第3位』



【剣道部男子】

○令和5年度第1ブロック秋季
剣道大会 『第3位』



【バドミントン部】

○令和5年度大田区バドミントン
新人大会 女子シングルス
『第3位』 中川 夏来 さん



【薬物乱用防止】

○薬物乱用防止ポスターの部
『東京税関大井出張所長賞』
車田 萌々香 さん

